

福祉サービス評価について

和歌山県福祉事業団では、平成17年度より、事業団評議員による施設サービス評価委員会を設置し、普段職員が気付かないこと、不十分なことを第三者の方から助言・提言していただくことで利用者の方の権利擁護と生活の質の向上を図ることを目的に施設のサービス評価を実施しました。その評価における総評ならび、今後取り組んでいかなければならない事柄（改善すべき項目、助言項目）に基き、施設の今後の取り組みを公表いたします。

実施日 平成29年12月5日（火）
施設名 南紀医療福祉センター
評価者 深瀬 幸子（事業団評議員・NPO法人はまゆう作業所副理事長）
公表日 平成30年6月

総 評

事業所の課題についての把握に努めており、防災・防犯対策や職員研修、成年後見制度の活用に取り組まれていました。また利用者及び職員間の意思疎通を図ることでトラブルや事故の防止に努められていました。事業所環境においては整理整頓されており、利用者の明るい表情からも提供サービスへの満足度が伺えました。

29年度 福祉サービス評価

項 目	評価の内容	項目に対する今後の取り組み	目標期限
環境面	事業所内の居室やトイレ、洗面所等も清潔に保たれており、廊下や共有スペースについても整理されてきました。また、余暇活動等のお便りも掲載されており、明るい環境づくりに努められていることが伺えました。	受けた評価に慢心することなく、清潔保持、利用者がすごしやすい環境づくりを継続してこころがけます。	継続

<p>職員間の意思疎通</p>	<p>管理監督職員と一般職員の考えの相違について、ストレスチェックやヒアリングの実施、昼食の時間におけるコミュニケーションを通じて状況把握に努められていました。</p> <p>今後においても管理監督職員は各職員の様子に気を配り、トラブルや事故などの予防に努め、安心して働くことができる職場環境づくりを継続して行って下さい。</p>	<p>ストレスチェック及び監督職員と一般職員の面談を定期的の実施します。</p> <p>また、普段から職員それぞれの様子に気を配り、随時面談を実施し、職員の精神面・健康面に配慮した職場運営を行います。</p>	<p>継続</p>
<p>ニーズ把握</p>	<p>思いを伝えることができない利用者や家族の内在的なニーズの把握に向けてアンケート調査に取り組まれていました。今後においても当事者の思いに目を向け、意識的な取り組みの継続が望まれます。</p>	<p>継続してアンケートを定期実施し、利用者・保護者からのニーズや不満などを適切に把握できるように努めます。</p>	<p>継続</p>
<p>防犯・防災</p>	<p>地震、津波、水害への対策等、事業所としての課題が検討されているとともに防犯面においても防犯カメラの設置や防犯グッズの常備等の対策がされており、適切な安全管理が行われています。</p>	<p>今後も防犯・防災等における様々なリスクに配慮し、職場全体で危機管理における意識を醸成していきます。</p>	<p>継続</p>